

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

絵日記の部

『いいもりやま』

会津若松市立一箕小学校 1年 中村 実結



だ
い
め
い
い
い
も
り
や
ま

一
箕
小
学
校

一
年

な
か
む
ら
み
ゆ

心		が	る	っ	ん	い	の	は	
を	び	あ	ば	こ	で	ろ	た	わ	い
う	ゃ	り	し	た	お	や	め	か	い
け	っ	ま	よ	い	ど		に	ま	も
つ	こ	す	と	に	っ	ほ	ひ	つ	り
ぎ	た		お	か	た	い	い	の	や
ま	い		は	か	び	く	た	ひ	ま
す	の		か	わ	ゃ	え	す	と	に

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

小学校2・3年生の部

『大好きなつるがじょうのために』
会津若松市立行仁小学校 3年 東條 寛子

わたしは、大好きなつるがじょうのためにいなわしろ湖のゴミ拾いをしてきました。

その日は、お母さんの会社の人たちもいたので、少しのきんちょうで、ずっとドキドキしていました。

ところで、なぜ大好きなつるがじょうのためにいなわしろ湖のゴミ拾いをしたのかというと、こんなことを教えてもらったからです。それは、つるがじょうに遊びに行ったときに「おしろの周りには水は、どこからきたの。」

とわたしがお母さんにしつ問しました。すると答えは、いなわしろ湖でした。

わたしは、こう思いました。

「なんで、いなわしろ湖からつるがじょうは遠いのにどうやって水がきているのか」ふしぎに思いました。

続けて話をきくと、昔は、おしろの周りの川から水をひいていたそうですが、昔のせんそうや雨がずっとふらなかつたりなど、色々な理由でいなわしろ湖から水をひくことになったそうです。いなわしろ湖の水は、ほかにも田うえや、畑などの食べ物を作るための水につかわれたり、わたしたちがのんでいる、水道水につかわれています。会津のまちの中をながれてる水も、いなわしろ湖の水がふくまれている、まちをキレイにしているそうです。

なので、このしつ問をして分かったので、

「もっといなわしろ湖の水をキレイにしたい。」

と思いました。そうしたらおしろの水がとてもキレイになるからです。

するといなわしろ湖をきれいにするイベントがあると聞いたので、わたしもぜひさんかしたいとおねがいしました。さんかして少しでもやくにたててよかったです。

数日後、またつるがじょうに遊びに行ったら、少しおしろの周りの水が、なぜかキレイに見えました。

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

小学4・5・6年生の部

『福島県会津若松市が好きですか？』
会津若松市立鶴城小学校 6年 土橋 世佳

私は福島県会津若松市が好きだ。自まんのお城は一年中きれいで、山がたくさんあるから、冬には、私が大好きなスキーだってできる。それに、「福島県会津若松市」という名前も好きだ。「福」がたくさんつまった島。昔は「相津」と言われていて多くの川が集まる場所といわれていた。福島県会津若松市は食べ物もおいしいし、文化もたくさんある。

こんなすてきな町でもなくなりかけているものがあります。それは、「伝統工芸品」です。五年生の時に、総合の学習で伝統工芸のよさや今の課題などを職人さんにきいたりしました。私は会津木綿について調べましたが、どの伝統工芸品も「後継者がいない」ということと「買ってくれる人が少なくなっている」ということが課題でした。その課題を少しでも解決するために、チラシやポスターで伝えればいいんじゃないのかなと考えました。まずは、全校生やお家の方が見る鶴城祭りで発表しました。それぞれのよさや課題などをスライドや言葉で発表しました。お父さんから、

「そんな課題があったんだ。初めて知った。」

と言われてこれからもいろんな人に伝えないとと思いました。学年全員では、学校から地域の人から市、県の人から全国に伝えていきたいと全員で目標を決めました。

六年生になった時、修学旅行に行きました。行き先は仙台です。そこで五年生の時に作ったチラシをくばりました。仙台の方たちからは、

「会津にはこんなものがあるんだね。」

と言われて県外の人にも知ってもらえたのがうれしかったです。

来年、中学生になって、もっと広い社会で広い活動をすると思うので、このすてきな町を知ってもらいたいです。私は、この「福島県会津若松市」に生まれよかったです。だからこそ、この町にある課題を私たち若い世代が解決していき、もっともっといい町にしていきたいです。

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

中学生の部

『会津の二つの町に住んで思ったこと』
福島県立会津学鳳中学校 1年 寺岡 葵

私は六年生までは南会津町に住んでいました。卒業を契機に会津若松市に転居しました。ここでは、この二つの街に住んでみて、会津について感じたこと、会津の未来について考えることを述べたいと思います。

南会津町は、平成の合併で、一町三村が一つの町になりました。旧町村にはそれぞれ湿原があったり、町の九割以上が森林で占められていたり、とても自然の豊かな町です。湿原には普段は見られないような植物がたくさん見られます。私は四年生の時に田島地域にある駒止湿原に行きました。そこではミズバショウやワタスゲといった植物が見られました。

他にも歌舞伎などの伝統芸能も盛んです。伊南地域にある大桃の舞台など、今もなお残存している舞台がそれを物語っています。明治時代から平成時代初期まで、南会津町では歌舞伎は廃止されており出来ない状態でした。しかし、歌舞伎を復活させたいという地域住民の強い願望があり、歌舞伎が出来るようになりました。私の通った田島小学校では、三年生が授業の一環として歌舞伎を学びます。そして、十二月には、成果を発表する公演が行われます。七月に行われる祇園祭と呼ばれる祭りでは保存会の人たちが歌舞伎を披露します。屋台での上演が行われます。

このように南会津町には秀麗な自然があり、古き良き伝統があります。この伝統や自然を守っていくことが今後の課題だと僕は考えます。

次に、現在住んでいる会津若松市についてです。私は、校外学習で会津若松の歴史について学びました。その中でも会津若松城は、会津の歴史に深く関わっている城だということは言うまでもありません。最初の城は戊辰戦争のときに壊滅してしまい、地域住民の要望により取り壊されてしまいました。現在のお城は、再建されたものですが、会津の歴史を伝えること、そして、観光資源として、重要な役目をはたしていると思います。

一方で、会津若松市は、ITによる街作りが急速に進められています。歴史的な街を守っていくことと、近代的な街づくりを進めていくことは、相反することのように感じられます。しかしながら、歴史や伝統的な建造物を守りながらも、ITによる効率化を進めることは、理想的な街づくりができていくように考えます。

二市町に共通していえることは、歴史を守ろうとしている事だと考えます。デジタル化が進んでいても伝統や古き良い建物などを守れるのはとても凄い事だといえます。私たちには地域の行事などに積極的に参加して伝統を守っていくことが求められていると私は考えています。

